

ゴーヤ、ミニトマト、ネギ、ニンジン……。6平方メートルでも意外に多くの野菜を育てられる

【アグリス成城】



小 田急電鉄グループが運営するアグリス成城は、線路の上にある貸し農園。東京・成城学園前駅から徒歩1分の場所にある。

「日照りがよく、土もよいので収穫も多い。家族では食べきれないので、近所の人に配るつもりだ」と、予想外に多かった野菜の収穫を喜ぶのは、元大学教授の加藤好武さん(64)。2駅離れた自宅から電車で週に1〜2度通っているという。

貸し農園を最初に借りるのはこうしたリタイア組が中心。だが、そのうちに、子どもや孫も来るようになる。1区画6平方メートルで6人まで会員になれる。会員層は30代、40代、50代、60代がほぼ同数だ。

42

線路上の貸し農園 孫と一緒に野菜作り

年間利用料は13万6500円。地の世田谷区民農園は2年で9200円なので30倍近く高い。だが、アグリス成城では、農作業に必要な道具や肥料がすべて無料で利用できる。駅徒歩1分のうえ、ロッカールームやシャワーなども備え、買い物ついでに手ぶらで来ることもできる。常時4〜5人のスタッフがいて、気兼ねなくアドバイスを受けられる。

昨年からのサービス開始で、全300区画のうち、埋まっているのは114区画だが、今年への継続率は80%と高水準だ。本格的に行うには大変な農作業を、手軽に参加できる形にしており、高齢者中心に利用者はまだまだ増えそう。



売れる法則

家族で食べきれないほどの収穫の楽しさを気軽に体験できる



「スナツピーオークションズ」 お店に預けて ネットオークション



東 京・目黒に商品を預かるだけの「店舗」がある。スナツピーオークションズ。オークションに出品したいけど、手続きがよくわからない。そんなときに商品を店舗に持ち込むだけで、ネットへの掲載から落札者への配送まですべて代行してくれる出品代行店だ。

者双方からの信頼につながり、業者との差別化にもなる。目黒の1号店はわずか13坪。うち約8坪が商品保管や撮影のためのバックヤードに充てられる。

落札額が大きいほど同社の手数料も上がる仕組み。1号店には月500〜6000の商品が集まり、リピーターの比率が高い。意外に高齢者の利用も多いという。現在は都内3店に拡大。今秋からは本格的にFC化を進め、「3年で300店を目標にする」と土屋社長の鼻息は荒い。

店頭では担当者がその場で査定。落札予想額5000円以上から預かる



最大の特徴は、ネット出品代行ながらリアル店舗を持つことだ。それが依頼者、落札者、写真やコメントの付け方などにも工夫を凝らす。

売れる法則

ネットでもリアル店舗を構え、参加しやすい環境をつくる

